

黒潮にカジキを追って



(写真上) 2002年8月、最大重量310.0kgのカジキをヒットした際のもの、前列右から三番目・筆者。その左・筆者の孫。
(写真左) 2001年8月、一度に2匹のカジキをヒットした際のもの、左から二番目・筆者。

種村 良平 コア取締役会長



トローリングを始めて16年目になります。シーズンの5月から10月までの週末は、「コアドリーム」号に乗り、大海原で太陽の光を浴びて、カジキの「夢」を追っています。

トローリングに大切なのは、目標設定、情報収集とチームワークです。それはまさに会社経営や仕事への姿勢に通じるものがあります。

最初にカジキを釣り上げたのは、1993年8月、28・0kgのカジキでした。以来これまで伊豆諸島近海で41本のカジキを釣り上げました。その中から最も印象に残る2件をご紹介します。

最初の100kg級のカジキを上げるには、本来は、キャプテン、アングラ、リーダーマン、ギャフマンという役割を担った4人が息を合わせて全力で取り組む必要があります。その日のクルーは3人だったので、一度に2匹のヒットで現場はてんやわんやの状況になりました。2時間の格闘の末、順番に151・0kgと133・0kgの2匹を釣り上げました。壮絶な疲労感をも忘れさせる限りの達成感に酔いしれた一時でした。

右の写真は、2002年8月に最大重量の310・0kgのカジキを釣り上げた時のものです。巨大カジキは、ルアーを振り払おうと全力で何度も海上を飛び潜りします。3時間に及ぶファイトの後、体力の限界を超える気力でついに釣り上げました。体長は3m90cm、日本のプレジャーボートが釣り上げたカジキでは史上第2位になる大きさでした。

トローリングは私にとって、趣味であり、闘いであり、真剣に情熱を傾けて夢を追う舞台です。そんな私の挑戦記録をまとめた書籍『黒潮にカジキを追って』が昨年、テン・ブックスから発刊されましたので、最後に僣越ながら紹介させていただきます。

左の写真は、2001年8月、一度にカジキをダブルヒットさせた時のものです。その日はダブルヒットの前にもう1匹、つまり1日に計3本のカジキを釣り上げるという記録を出しました。100

私	の	
思	い	出
写	真	館